

土木史研究データベースの作成と今後の土木史研究について

北見工業大学 正会員 中岡 良司
北見工業大学 正会員 森 弘
北海道大学工学部 正会員 佐藤 鑿一
北海道大学工学部 正会員 五十嵐 日出夫

Present Conditions and Issues at the Study of
Civil Engineering History based on Database

by Ryoji NAKAOKA, Hiroshi MORI, Keiichi SATO, Hideo IGARASHI

概要

本研究は、第1回から第6回までの日本土木史研究発表会論文を対象に土木史研究データベースを構築し、これまでの土木史研究の傾向と特徴を分析したものである。データベースの構築にあたっては、表題・発表者・キーワード・発表年次など一般的な事項に加えて各論文の概要全文を収録している。さらに研究分野、対象となった時代、地域、登場人物も加え土木史研究の総合的なデータベースとした。これによって我々は、これまでの土木史研究を時間・空間・人間の視点から眺めることが可能となった。

土木史研究データベースにおいて採用したリレーショナルデータベースは、その強力なデータベース処理機能にも関わらずパーソナルコンピュータで稼働し、個人レベルで本格的なデータベースを構築することを可能としている。本研究においては、まったく任意の用語から必要な論文を検索できることを示したばかりでなく、これまで発表された論文の分野別論文数、研究対象年代、さらに研究で取り上げられた人物の分析に関してその機能を十全に発揮した。

本研究発表会の歴史は浅く、現時点では十分に発表論文の傾向と特徴を見いだすことはできないが、データベースの蓄積によって、今後はより総合的な視野から一層の土木史研究の体系化を推し進めることが可能となる。本文では今後の土木史研究発表会のあり方についても言及した。

[キーワーズ] 土木史研究データベース、リレーショナル・データベース

1.はじめに

昭和56年に第1回日本土木史研究発表会が開催されて以来、今日まで、既に総計171編の研究論文が発表されてきた。本研究発表会の発足は土木技術者や研究者の土木史への関心を呼び起したばかりでなく、土木史研究そのものを質的および量的に向上させることに大いに貢献してきた。しかし、土木工

学に身を置く者の層の厚さを勘案すれば、なお一層の発表件数の増大が望まれるばかりでなく、今後は、各分野の多様な研究が一同に会する特色を生かして土木史研究の体系化を推し進めることが期待されている。

さて、著者らは既に第4回、第5回、第6回の本研究発表会で、土木史研究におけるコンピュータの

活用としてリレーショナルデータベースの有効性について論じてきた。今回は、過去6回の全研究論文を対象に土木史研究に関する論文データベースを作成し、これまでの土木史研究の傾向と特徴を分析する中から今後の土木史研究の活性化を考察したものである。

データベースの構築にあたっては、リレーショナルデータベース構造を用いて、表題・発表者・キーワード等の一般的な事項の他に概要全文を加え、さらに研究分野および時代・地域・人物を可能な限り明確にした。データの多くは各論文を読み取る形で著者らが独自に作成した。したがって、その内容の遗漏あるいは誤りはすべて著者らの責任にある。

なお、以下の記述においては、各論文の著者を原著者と記し本研究の著者らと区別する。

2. 土木史研究データベースの設計

(1) 基本構想

データベースの設計にあたって最も重要なことは、項目の設定とその内容である。当然、そこではデータベース運用の目的が前提となる。一般的な文献目録のデータベースにおいては、発表機関、発表年次、表題、著者、キーワードなどの項目があれば十分であろう。しかし、本研究では、土木史におけるこれまでの研究論文の傾向と特徴を分析しようとするのであるから、文献としての基本的な項目以外に、対象としている時代や地域さらには取り上げられた人物などを示す独自の視点が必要となる。そこで、本研究では基本的な内容を収めた基本データベースと独自の視点による分類データベースの2種類のデータベースを作成することとした。(図-1)

基本データベースは文献目録としての性格が強いが、特筆すべき点は各論文の冒頭に記された「概要全文」を収めていることである。概要是、原著者が自ら研究の目的および成果などをまとめたものであるから、その内容を知る上でこれに勝るものはない。たしかに、1編当たり最大1,000字のデータを入力することは容易な作業ではなく、従来このようなデータベースを作成することは避けられていたが、今日の日本語ワードプロセッサ技術の発達は、それを十分可能とした。

1 論文番号	: ①
2 表題	: ②
3 著者	: ③
4 概要	: ④
5 Key Words	: ⑤

基本データベース

1 論文番号	: ①
2 分野	: ③
3 時代	: ⑦
4 (開始年)	: ⑧
5 (終了年)	: ⑨
6 地域	: ⑩
7 人物	: ⑪

分類データベース

図-1 データベースの構造

一方、分類データベースは著者らが独自の視点からその内容を作成したものである。その基本は土木史を時間・空間・人間から眺めるという立場である。とりわけ人間にに関しては、従来、土木の世界では個人の業績をあまり問題にしてこなかった。しかし、長い土木の歴史においては、いわゆる土木史100人に限らず、社会に貢献した人物は数多く存在するはずである。そして、より多くの優れた土木技術者の発掘は、将来的には、土木工学への社会の評価の向上へと結び付くはずである。著者らはこのような認識から、論文中に現れた土木技術者を可能な限り収録することとした。

以上の2つのデータベースは最終的にはひとつのデータベースとして統合されるのであるが、その位置づけが異なるばかりでなく、設計段階では分割しておくことによって、入力原稿の作成ならびに実際の入力作業が分業化でき、データベース構築の効率を飛躍的に高めることができた。

(2) 基本データベース

基本データベースは図-1に示されるように全部で9項目から成っている。

① 論文番号

全論文に6ヶタの番号を付けている。この番号は2ヶタづつ意味を持っている。最初の2ヶタは「日本土木史研究発表会論文集」(01)を意味し、今回のデータすべてに共通している。続く2ヶタは発表会回数であり、最後の2ヶタは各回における論文番号である。以上の番号は、今後、他の資料を対象とする場合でも対処できるよう余裕を持って設定した。

② 表題、③ 著者

論文記載のままである。

④ 概要

原則として論文記載のままであるが、第1回、第2回には概要の記述がないため本文の内容から新たに作成した。また、1000字を超える長文のものは適宜編集し、英文に関しては和訳している。いずれも著者らが作成した内容には、文頭に(*)を付けて原文の内容と異なることを示している。

⑤ Key Words

論文記載のままである。記載の無いものに関しては空白としている。

(3) 分類データベース

基本データベースは図-1に示されるように全部で7項目から成っている。前述したように、その内容は著者らが独自に作成したものであるから誤りも多いと危惧している。原著者の指摘を賜りたい。

① 論文番号

基本データベースと同じ内容である。この項目を通じて基本データベースと結合（リレーションナルデータベースでいうJOIN機能）させる。

⑥ 分野

研究対象分野の名称およびその境界に明確な基準があるわけではない。当初、土木学会の部門分けも検討したが、専門的ではあるが一般的な理解とは結び付かず、結局、各回のセッション名に準拠するのが最も適当と考えられた。表-1に各回のセッション名一覧を示す。ただし、各論文は必ずしも单一の

表-1 セッション名一覧

第1回 (23)	都市計画・道路関係、橋梁関係、河川・水資源・衛生関係、港湾関係、土木史一般
第2回 (26)	道路・鉄道関係、橋梁・構造物・施工関係
第3回 (24)	都市・計画・制度関係、河川関係、河川・海岸関係、衛生・農業土木関係
第4回 (23)	河川関係、衛生・港湾関係、地域・都市関係、交通関係、環境・土木行政
第5回 (39)	招待論文、河川、衛生・景観、交通・計画
	土木史一般
第6回 (36)	招待論文、土木史一般・衛生、北陸の土木史その1（雪・道路・都市）、北陸の土木史その2（河川）、河川、鉄道・構造物、地域・都市計画、道路
	招待論文、土木史一般・構造物・材料、交通・道路・鉄道・衛生、河川1・河川2
	景観・地域計画、地域・都市計画

* 回数下の()内は発表件数

分野にとらわれず複数領域にまたがる場合も多い。そこで、論文内容から最も関係が深いと考えられる順に、あるいは広領域から専門領域の順に分野名を列記しその関係を示した。

⑦ 時代

歴史の流れを大づかみに区切ったものが時代区分であるが、区切る観点によって様々な時代名が用いられる。例えば、大和・平安・江戸など政治の中心が置かれた場所名、南北朝・戦国といった政治の状態を示す名、あるいは明治・大正・昭和など年号の名、さらには古代・近世・現代など政治経済的な特徴を示す名があげられる。これらを統一することは原著者の意図に反する結果となりかねないので、ここでは、できるだけ本文中で使用している時代区分を示すことにした。

⑧ (開始年) 、 ⑨ (終了年)

上記の時代区分では、各論文を正確な時間軸上に位置付けることは不可能である。そこで、本文中に記された最も古い西暦と新しい西暦を調べた。ただし、本論に直接関係しない前段に現れる暦年や補足的な記述中の暦年は極力除き、できるだけ研究の対象としている年代を割り出した。

⑩ 地域

できるだけ現在の地名（都道府県名、市町村名）と対応させたが、道路の路線名あるいは構造物の名称など地名との対応が困難な内容も多かった。また、讃岐、大和地方などかつての地名を現代に位置づけるのは容易なことではない。

⑪ 人物

人物の抽出は本データベースの最も大きな特徴である。そして、この作業は最も困難を極めた。例えば、「徳川家康の時代に・・・」といった記述があったとして、論文に現れた人物として抽出すべきであろうか。各論文中に現れる人物は膨大な数に及び、何らかの基準なくしてはその抽出は不可能である。そこで、とりあえず今回は、

- ・ 明らかに土木技術者であること
- ・ あるいは土木事業に深く関わった人物
- ・ 論文中で特に重要と考えられた人物

の3つの基準から人物を特定した。もちろん、このような基準にあいまいさが残ることは避けられないが、本論文におけるひとつの試みである。

3. データベースの構築と運用

実際にデータベースを構築するに際して、どのような機器およびソフトウェアが必要となるか。あるいは所要時間、処理時間はどの程度かは大いに気になるところであろう。本研究の方法が必ずしも最善とは言えないが、一例として示したい。なお、以下の詳細な内容は第4回研究発表会論文「リレーションナル・データベースによる土木史情報支援システムについて」でも述べている。

① ハードウェア（機器）

使用したコンピュータは、PC-9801VM2(NEC)を中心とするパソコンシステムである。おそらく、このシステムは今日では最も多くの大学に普及している標準的なシステムである。本研究では、本体に4MB（メガバイト、1MBは英数字で約100万字の記憶容量）のメモリーを増設してデータ処理時間を速めているが、必須機器ではない。

② ソフトウェア

使用したソフトウェアは日本語ワープロ、リレーションナルデータベース、日本語BASICの3種である。これらは、いずれもOS（オペレーションシステム）をMS-DOSとしてデータの互換性を図っている。実際の手順としては、ワープロ「一太郎」（ジャストシステム）でデータを入力し、後にデータベース「μCOSMOS Ver3.0+」（日本オフィス機器㈱）に変換しデータ処理している。なお、後述する人物名の割り出しあるいは研究対象期間のバーチャートなど特殊な処理に関してはBASICでプログラムを組んでいる。

以上の機能を有していればソフトウェアは任意のもので良いが、リレーションナルデータベースに関しては注意を要する。それは、前述した「概要」の最大文字数は1,000字（2,000バイト）、「人物」で最大800字となつたため、1項目（リレーションナルデータベースでは一般にフィールドと呼ぶ）内にこのように大きなデータを取り込めるソフトウェアが限られるからである。本論文末尾に記すように、作成したデータベースは希望者に提供する用意があるが、この点に十分に注意されたい。

③ データベース作成に要した時間

データベース作成に要する時間は、入力原稿の作

成時間と実際の入力時間および修正時間に分けられる。基本データベースは基本的に原稿を作らず論文集の内容を直接データ入力している。2名（専門パンチャーではない）が1日約6時間従事し約2週間かかった。分類データベースに関しては、論文内容を読解する必要があるため、原稿カードの作成に約1ヶ月を要している。入力は約1週間である。訂正も含め、すべての作業は平行して進めたので総合的には約1ヶ月半で仕上がった。

④ データベースの運用と処理時間

データベースの実際の運用に関して詳細に述べることは紙面の関係で無理なので、ここではその基本的な運用について示したい。

最初に行ったことは、論文番号をキー項目として基本データベースと分類データベースを結合（JOIN）し、土木史研究データベースを作成したことである。そのデータベースの構造を一例とともに図-2に示す。その後は、分析に応じて必要な項目を抽出（PROJECT）したり、条件を満たす論文を選択（SELECT）し、年代順に並び替える（SORT）などリレーションナルデータベース機能で大半の処理が可能となる。171件のデータにおいて、結合、抽出、選択は約3～5分程度の時間がかかる。並び替えはどんなに複雑な条

1 論文番号：010419
2 表 領 地：秋田県千畠村にみる都市計画－ハワード田園都市との比較－
3 著 者：秋田大学 清水浩志郎、秋田高專 折田仁典、岩手県 本木正直、秋田大学 林 達夫
4 概 要：秋田県仙北郡千畠村の菅原坂本理一郎（東京）（文久元年（1861年）～大正6年（1917年））は、明治35年（1902年）頃から千畠地区で耕地整理をはじめ道路整備、役場、学校、郵便局の移転などを計画的に行い新しい村づくり事業を開始した。その土地利用の基本形態は、中心地に行政機關などを集中させ、そこから松・杉・桜並木の放射状の6本の道路で各地区を分割している。坂本が独自の発想で村づくり事業を開始したほぼ同時期に、英國においてエベニザ・ハワード（1850～1928年）が田園都市論（1898年）を発表した。本報告は、坂本による千畠地区的村づくりとハワードの田園都市計画との類似点に注目し、両者の計画を歴史的背景等から比較・検討したものである。
5 Key Words: 都市計画、農村計画
6 分 野：都市計画
7 時 代：明治後期～昭和
8 (開始年)：1902
9 (終了年)：1955
10 地 域：秋田県千畠村
11 人 物：坂本理一郎、エベニザ・ハワード（英）

図-2 土木史研究データベースの内容

表-2 土木史研究データベースにおける論文番号と表題

第1回	010101 大阪の街づくり史ー市街地整備事業史ー / 010102 三木本台の都市計画 / 010103 日本の道路の歴史ーその交通手段と整備の時代区分についてー / 010104 東京の幹線街路形成の史的研究ー東京市区改正條例を中心としてー / 010105 明治期東京の路上構築物と景観について / 010106 日本の橋梁形式の変遷ー橋梁美の客觀性についてー / 010107 通潤橋について / 010108 江戸時代の心霽橋についてー大阪町橋の研究ー / 010109 四谷見附橋のデザイン思想と周辺景観の歴史的変遷 / 010110 内陸水路交通の土木史学的研究 / 010111 吉野川の歴史ー土木工学的な立場でー / 010112 東京都の台地部中小河川の水害特性に関する史的考叡 / 010113 商工部省大阪の水利用と水空間の変容 / 010114 地域開発と治水利水計画ー鹿島湾北岸の新田開発を中心としてー / 010115 赤穂水道の沿革と現状 / 010116 然田川について / 010117 三角西港の築港に関する研究 / 010118 地方における港湾の歴史的変遷と地域との係わりに関する調査研究 / 010119 東京港築港と河川改修との関わりについての研究ー河川からの流出土砂を中心課題としてー / 010120 明治行政制度の成立と土木行政機構の推移 / 010121 環境アセスメントの社会的変遷に関する一考察 / 010122 土木史の意義と設計への応用 / 010123 日本史を通して見た土木ー過去から未来へー / 第2回 010201 ユーラシア大陸における國際道路交通の歴史的発展と発展要因に関する考察 / 010202 東京における駅明附の地下鉄づくりに対する史的考察 / 010203 横浜における路面電車の役割の変遷に関する考察 / 010204 日本における鉄道用レールの変遷ー残存する現物の確認による追跡ー / 010205 奈良時代後期の《橋》に関する考察ー吉田南遺跡の木製構造物についてー / 010206 フォース橋と渡邊第一（その1）ー理もれていた明治のある技術者の業績ー / 010207 わが町におけるニューマチックケーン工法の歴史（その1） / 010208 瓦釜湖疏水の工具等山トンネルと豊功 / 010209 毛馬第2閘門の調査と保存 / 010210 大阪における堀川の橋石計画的意味 / 010211 銀座通りにおける街路景観の変遷 / 010212 古代地図計画の原理その1対討論（仁慈天皇難波高津宮の発見） / 010213 明治行政制度の成立と土木機構の推移 / 010214 木曾三川と輪中について / 010215 吉野川の歴史ー庄屋・豪農の日記類における川成と昔話の記録ー / 010216 加賀・手取川の流域変遷 / 010217 大河津分水と満願寺水門 / 010218 民間治水論に関する考察 / 010219 近代駅明附における河川改修計画についてー考察ー明治29年2月発表の斐伊川改修計画を具体的な事例として / 010220 電力土木の歴史ー各河川水力発電の変遷ー / 010221 兵庫県の台地部中小河川の水害特性に関する史的考察（第2報） / 010222 防災支援体制の史的成立過程に関する研究ー三陸沿岸を事例としてー / 010223 江戸時代の上水道についての2、3の考察 / 010224 大阪市水道の変遷 / 010225 田沢湖疏水トンネルの歴史的評議 / 010226 古都における塵芥処理のあゆみ / 第3回 010301 電力土木の歴史ー各河川の水力開発の変遷（その2） / 010302 仁慈天皇難波高津宮の歴史 / 010303 吉野川の歴史（その3）ー藩の農村支配体制の面から見た勤農川除普請 / 010304 金沢城周辺の水系と水利 / 010305 加賀辰巳用水 / 010306 近代上下水道と瓦瑟湖疏水建設の背景 / 010307 近江八幡水道の研究 / 010308 明治初期における塵芥処理制度に関する二、三の考察ー京都を中心としてー / 010309 昭和8年三陸大津波後の復興事業とその今日的意義 / 010310 港湾文化施設の現況 / 010311 手結港の建設経緯と今後の整備に関する考察 / 010312 八郎潟干拓事業の歴史的考察 / 010313 明治期の土木事業費と投資効果ー瓦瑟湖疏水事業を例としてー / 010314 環境アセスメントから見た明治期における工場建設 / 010315 ブラジルにおける日系移民のまちづくりーサンパウロ州レジストロでの事例研究 / 010316 古代地図計画の原理その2尺度論ーオリエント起源の大和尺の発見ー / 010317 日本における鉄道用レールの変遷ー残存する現物の確認による追跡（第2報） / 010318 明治駅道網形成の開発効果の測定 / 010319 東京における都市高速鉄道網計画の変遷に関する史的考察 / 010320 防雪技術の変遷に関する研究ー主として流雪についてー / 010321 バイバス景観の変遷に関する研究 / 010322 雪災復興道路の横断観測計画に関する一考察 / 010323 山梨県笛吹川水系に現存する戦前の橋のデザインについて / 010324 明治行政制度の成立と土木機構の推移 / 第4回
010401 科学的精神と詩のこころー技術史の視点ー / 010402 長尺用水と兼六園 / 010403 吉野川の歴史（その4）ー農民の治水論から想出される当時の況ー / 010404 近世文書にみる水利技術の系譜 / 010405 電力土木の歴史ー各河川の水力開発の変遷（その3） / 010406 明治期日本の公衆衛生に関する情報郊界 / 010407 京都における庭芥処理の変遷ー汚物桶設置法成立前を中心としてー / 010408 雪災復興與橋梁の計画とデザイン的特徴ー旧東京市内における復興局架設橋梁を中心としてー / 010409 横浜港における景観構造の変遷に関する研究 / 010410 首都高速道路の景観評価 / 010411 日本幹線道路網の史的考察ー特に七道駿路と高速道路ー / 010412 明治開拓期における札幌の交通 / 010413 明治期大阪市内交通手段の推移ー主として人力車・巡航船ー / 010414 東大阪地域における鉄道網の発展過程について / 010415 除雪技術の変遷に関する研究ー主として道路の機械除雪についてー / 010416 古代地図計画の原理その3幾何图形論ー金印の島のビラミッド图形ー / 010417 幕末期の三木本原開拓事業における地域開発と新都市開発の思想と構思 / 010418 大正末・昭和初期の住宅地開発の設計思想に関する実証的研究 / 010419 秋田県千畠村にみる都市計画ーハード田園都市との比較ー / 010420 「日本土木史」論 / 010421 明治行政制度の成立と土木機構の推移 / 010422 堀土史を土木史の教材として / 010423 明治以前日本土木史年鑑の試作についてーリレーショナル・データベースを用いた土木史料学の整理ー / 第5回 010501 前方後円墳の技術史ー土木構造物の起点を考えるー / 010502 リレーショナル・データベースによる土木史料情報支援システムについて / 010503 切手でみる土木史：日本編 / 010504 明治行政制度の成立と土木機構の推移 / 010505 高松水道の研究 / 010506 明治期の水利施設のデザインに関する考察ー神戸・長崎の水道施設を事例としてー / 010507 水戸市及び足利市の淨水場における洪水との戦い / 010508 除雪技術における大・中・小技術システムに関する研究 / 010509 冬期道路交通確保対策の発展過程と今後の課題 / 010510 親不知のみちー崩壊・落石とのたかかいー / 010511 港町新潟の江戸時代の町割について / 010512 岐阜直と新潟のまちづくり / 010513 港とまちの空間構成上の問題に関する史的研究 / 010514 千曲川における寛保2年（1742）8月大洪水の考察 / 010515 大河津分水の現状について / 010516 信濃川下流部における河道変遷に関する一考察 / 010517 辰巳用水と三用水 / 010518 河北潟干拓と鉄界五兵衛 / 010519 近世文書にみる水利技術の系譜（その2） / 010520 江戸時代における水防の組織と態勢 / 010521 吉野川の歴史（その5）ー島嶼の地方新聞にみる明治年間の治水動勢ー / 010522 電力土木の歴史ー各河川水力開発の変遷（その4）ー / 010523 戦前の河川統制事業とその社会的背景 / 010524 東大阪地域における鉄道網の発展過程について（その2） / 010525 明治時代に製作された鉄道トラス橋の歴史と現状（第1報）ー2000フィートグブルワーレントラスを中心としてー / 010526 信越横琴川摩耶線橋の保存対策と錆水による歴史的建造物の評価と人物 / 010528 古代地図計画の原理その4聖山論ー二等基準7.6kmの権現堂の三角形ー / 010529 地耐力からみた札幌市の都市化過程 / 010530 再現モデルによる定住化過程の分析ー札幌市白石区を例としてー / 010531 震災復興計画の推進体制ー帝都復興院をめぐってー / 010532 日本占領下の北京都市計画（1937～1945年） / 010533 街路形成にみる日立市の都市計画の変遷 / 010534 東山道が果たした役割と地方の地域社会発展に及ぼした影響についてーその1大化改新から平安時代末までー / 010535 日本幹線道路網の史的考察（その2） / 010536 明治開拓期における札幌の交通（その2） / 010537 明治期における道路整備に関する一考察ー東西と日本の道概念の比較ー / 第6回 010601 国づくりの歴史と土木 / 010602 明治行政制度の成立と土木機構の整備 / 010603 切手でみる土木史：世界編 / 010604 橋の伝承に関する一考察ー東京の橋を例としてー / 010605 対雪活動における住民と行政の対応関係の変遷ー主に流雪構についてー / 010606 我が國で最初のマルチプルアーチダム豊砂地の建設 / 010607 明治時代に制作された鉄道トラス橋の歴史と現状ー英倒斜トラスの2ー / 010608 鋼災復興橋梁の構造形式と架設の経過に関する考察 / 010609 東海のコンクリートの歴史 / 010610 交通路の発達による時間距離の変遷についてーリレーショナル・データベースを用いてー / 010611 線巻に見る道と交通の歴史 / 010612 東大阪地域における河川と舟運について（その1） / 010613 戦前の関東圏における観光開拓鉄道路線の展開と誘客策に関する研究 / 010614 嵐山道が果たした役割と地方の地域社会発展に及ぼした影響について（その2） / 010615 バリ県現地道路の環境設計に関する一考察 / 010616 橋梁架設用起重車Y1形の歴史 / 010617 夢根瀬における水道についてー夢根と長浜ー / 010618 水利開発史における寬文期に関する考察 / 010619 近代における水防の組織と態勢 / 010620 治水長期計画の策定の経緯とその基本的考え方の変遷 / 010621 河川現況と治水自然主義論 / 010622 吉野川の歴史（その6）本流の治水工事と併行した周辺の治水と水利工事 / 010623 加賀・梯川水系の歴史 / 010624 辰巳用水への技術の流れ / 010625 電力土木の歴史ー各河川水力開発の変遷（その5） / 010626 江戸時代における隅田川の橋梁の景観に関する研究 / 010627 緑地帯にみる橋詰広場施設と景観の移り変りー江戸から今日までー / 010628 古代地図計画の原理その5続聖山論ー政治都市の起源ー / 010629 我が國近代リゾート地の発展過程に関する研究 / 010630 大東港の計画と建設（1937～1945年）ー溝口における未完の大規模開発プロジェクトー / 010631 既世における城と城下町の建設史年表に関する考察 / 010632 明治初期の農村集落の小規模土木構造物についてー神奈川県久米村を事例としてー / 010633 戦前の東京圏における民営鉄道による沿線開発と字町割の形成 / 010634 福岡市の土木史的考察（その1）ー古代から秀吉の博多再興（町割り）までー / 010635 福岡市の土地造成と区画整理の過程について / 010636 地耐力からみた函館市の都市化過程	

件を与えても、たかだか1分程度である。使用したソフトが独自に備えている検索機能に関しては、全データ中から特定の文字列を検索するのにおよそ1、2分しか必要としない。もっとも、前述したように、以上の処理時間は4MBのメモリーを増設したシステムの場合であり、データがフロッピーディスクにある場合は数倍の時間を要する。

4. 土木史研究の傾向と特徴

ここでは、構築した土木史研究データベースを実際に活用して得られた成果について述べていく。分析結果の大半は該当する論文を論文番号で示している。そこで、あらかじめ論文番号と表題を表-2に掲げておく。これは、第1回から第6回までの本研究発表会の全発表論文でもある。

(1) 該当論文の選択

研究の動向を分析する前に、本研究で作成したデータベースの利用に関して極めて特徴的な点に触れておきたい。それは、データベースから必要なデータを取り出す操作についてである。

1	論文番号 :	010409
2	表 項 :	横浜港における景観構造の変遷に関する研究
3	著 者 :	培玉大学工学部 宮田鶴一
4	概 要 :	(*) 本論文は、写真、図版および現地調査に基づき横浜港における景観構造の変遷について述べたものである。横浜港の発展過程は幾つかの段階に分けられる。7世紀以前、新田埋立地にあたる一帯は「州乾の湊」と呼ばれていた。その出口には、「駒形の州」の先に突出した形でいわゆる「象の鼻」があり、水面空間は区分されていた。明治維新後、横浜は開港し、居住地の広がりにつれて海岸線に沿ったいわゆる「横浜バンド」が形成されていった。横浜港の近代化と空間の変容も幾つかの段階に分けられる。関東大震災後には「山下公園」が造られ、第2次大戦後には埋め立てにより外側に広がっていった。鉄道と高速道路は港と町を視覚的に分断した。横浜港の景観構造の変容パターンは3点に要約される。即ち、1) 水際空間の外延化と分節化、2) 視点分布の転移、3) 視線方向の転換である。また、景観の特質として、1) 景観の形態の持続、2) 原風景への回帰もしくは代償的再成、3) 景観の移植(上海港)が考察される。
5	Key Words:	港湾 景観 変遷
6	分 野 :	景観、港湾
7	時 代 :	江戸初期～現在
8	(開始年) :	1655
9	(終了年) :	1985
10	地 域 :	横浜港
11	人 物 :	

図-3 「概要」の用語検索例

従来、作成したデータベースから必要なデータを取り出すには、あらかじめ設けたキーワードに従って検索するのが常だった。したがって、適当なキーワードの設定なくしては、データベースから希望するデータを何一つ取り出すことができなかつた。データベースにおいてキーワードは極めて大きな比重を占めていたと言えるだろう。しかし、今日、リレーショナルデータベースの登場により、我々は全く自由な発想によってデータを取り出すことができる。

いま、一例として、データベースの「概要」文中から「公園」の記述がある論文を選び出してみた。その結果、2編の論文が該当した。論文番号010409と010615である。前者の内容を図-3に示す。文頭の(*)印は、前述したように、原著者ではなく著者らが作成した内容であることを示している。この論文に関しては原文は英文である。このように公園は文中のいずれに記されても検索することが可能である。「横浜」はどうであろうか。「表題」も含め5件の論文が該当した。論文番号010115、010203、010224、010409、010618である。「人物」において「古市公威」は論文番号010119、010217、010401で取り上げられていた。このように、いまやデータベースにおいてキーワードの概念は一新されなければならない。今回の土木史研究データベースにおいても形式的に「キーワード」の項目は設けたが、それは現時点においてキーワードの記載が義務づけられているからである。今後、キーワードの内容が意味を持つとすれば、それは今回のデータベース作成で苦慮した時代、地域、人物に関する論文の位置づけを著者自ら行うことではなかろうか。

(2) 分野別論文数

各論文の研究分野を特定することは困難なことであるが、前述した「分野」項目の内容に沿った結果を報告する。

表-3は、今回収録した論文を分野別に集計したものである。表の第2欄は主な研究分野による論文数であり、主な研究分野の意味は「分野」における優先順位の最も高い分野である。ここでは6件以上(すなわち、全6回に対して平均1件以上の発表が為されたとして)の論文数がある分野について示している。その結果、河川、交通、都市計画、地域計

表-3 分野別論文数

分野	主な研究分野による論文数	関連分野も含めた論文数	「概要」文中に検索用語が現れた論文数 (検索用語)
河川	40編	44編	78編(川、河)
交通	32	33	65(交通、鉄道、道路、
都市計画	16	18	22(都市計画) 街路)
地図計画	12	13	13(地図計画)
景観	11	13	13(景観)
衛生	9	9	16(衛生、上水道、下水
橋梁	7	13	24(橋) 道)
港湾	7	9	18(港)
構造物	7	8	17(構造物)
土木行政	6	6	15(行政)

画、景観が本研究発表会の主だった研究分野である。とりわけ、河川は全論文数の約23%を占めている。ただし、これは発表の絶対数から考えると河川の論文が多いというより他の分野の論文が少ないと考えるべきであろう。次に第3欄は、対象領域を広げるため「分野」におけるすべての内容によって集計したものである。全般に該当論文数は増え、土木史研究の領域の複雑さを感じるが、とりわけ橋梁と関わりのある論文の増加が目立っている。さらに第4欄は、前項の方法により「概要」文中に各分野の特徴的な用語が使われている論文数を集計したものである（人物名との重複は除いてある）。これは研究分野を柔軟に解釈した場合の結果であるが、検索用語がどのような文脈において使用されているかは個々の論文に当たる必要がある。一応ここでの結果を前提とすれば、やはりこれまでの土木史において河川と交通の比重が高いことが明確となっている。

(3) 研究対象年代

各論文がどのような時代を対象に研究を進めているかを見てみよう。表-4は全研究論文を主な研究分野別に並べ、その研究対象期間を横軸に示したものである。視覚的に判別し易いようにバーチャートで現している。ただし、明治以前に関しては明治以降の20分の1の縮尺としているので注意が必要である。明治以前と以後に大別したのは、結果を見て分かるように、明治以降の研究が圧倒的に多くその詳細な区分が必要となったばかりでなく、歴史的にも明治維新はわが国が近代国家として生まれ変わった最大の変革であったと考えられるからである。土木工学においてもその事情は同様であろう。

全体に研究は明治期に集中し、明治以前は特定の時代を掘り下げた研究は少なく全時代的に研究される傾向が強い。その中にあって、河川の分野において江戸期の研究が着実に積み重ねられている。江戸以前に関しては全般的である。逆に、交通に関しては江戸以前に比べ江戸期の研究が少ない。戦後に関しても限られている。他の分野に関しては絶対数が少ないため現時点で特徴を指摘することは危険であろう。

(4) 研究で取り上げられた人物

本研究では、とりわけ論文中に現れる人物に強い関心を抱いてきた。表-5は、各論文から抽出した人物の一覧である。主な分野別に、さらにJIS漢字コード順（およそ漢字の音読み順）にまとめている。総勢 503名である。もっとも、各論文単位で抽出しているため、同一人物を重複して数えており実数はより少ない。また、表からも分かるように、河川の電力土木に関する研究は人物紹介が中心となっているため全体の約半数を占めている。具体的な人名に関する考察は他の機会に譲るとして、ここでは各分野別の登場人物数に関して考察しておこう。表-6はその結果であるが、やはり河川関係が断然多く全体の約6割を占めている。これは仮に電力土木の関係者を除いても、他の分野と比べ高い割合である。次いで、交通、都市計画の順に人物数は多く、ほぼ論文数に見合った結果となっている。ここで的人物が各論文中でどの程度重要な役割を担っているかこそ問われなければならないが、やはり人物の内

表-6 分野別登場人物数

主な研究分野	人物数	主な研究分野	人物数
河川	電力土木 232	構造物	20
	水利 19		港湾 18
	上記以外 41		衛生 18
交通	鉄道 20	地域計画	17
	道路 17		橋梁 15
	街路 11		景観 12
	河川 4		施工、土木材料 10
都市計画	26	計	503人
一般	23		

注記：同一人物であっても登場した論文が異なる場合はそれぞれ1名と数えている。

表-4 分野別研究対象期間一覧（その1）

論文番号	研究分野	(目盛りは明治以前の1/20) 明治時代 1人 審査							明治時代 1人 審査						
		(開始)	大和朝廷	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	江戸	明治	大正	昭和前	昭和後	(終了)	
010423	一般 テーマベース	0													1866
010123	一般 土木技術論	0													1885
010603	一般 切手	0													1885
010503	一般 切手	607													1885
010422	一般 繁榮史	1308													1895
010226	一般 底葉物処理	1665													1902
010314	一般 環境アセスメント	1883													1915
010121	一般 環境アセスメント	1960													1981
010122	一般 土木史論	--													--
010401	一般 技術史	--													--
010420	一般 土木史論	--													--
010502	一般 テーマベース	--													--
010601	一般 土木技術論	--													--
010223	衛生 上水道	1600													1866
010517	衛生 上水道	1602													1856
010307	衛生 水道	1630													1883
010505	衛生 上水道	1644													1885
010224	衛生 水道	1673													1885
010406	衛生	1857													1909
010308	衛生 腹芽処理	1869													1882
010407	衛生 底葉物処理	1875													1905
010306	衛生 路水	1877													1959
010216	河川 交通	0													1732
010512	河川 交通	0													1919
010516	河川	0													1973
010214	河川	0													1985
010302	河川	0													1985
010215	河川 水利	1573													1871
010304	河川 水利	1573													1865
010113	河川	1583													1980
010305	河川	1583													1982
010112	河川	1618													1966
010115	河川	1618													1985
010624	河川	1617													1985
010402	河川	1632													1985
010517	河川	1632													1985
010303	河川 議政	1645													1872
010518	河川 水利	1661													1672
010219	河川	1664													1975
010218	河川 治水	1665													1892
010111	河川	1672													1910
010518	河川 干拓	1673													1985
010404	河川 水利	1682													1951
010217	河川	1730													1927
010514	河川	1742													1742
010519	河川 水利	1752													1824
010520	河川 洪水 水防	1811													1985
010403	河川	1830													1912
010623	河川	1851													1985
010521	河川	1875													1910
010220	河川 電力土木	1882													1985
010619	河川 水防	1890													1939
010405	河川 電力土木	1895													1985
010523	河川 ダム	1896													1941
010621	河川 治水	1899													1981
010522	河川	1909													1927
010515	河川	1909													1985
010620	河川 治水	1910													1985
010625	河川 電力土木	1912													1985
010522	河川 電力土木	1913													1985
010301	河川 電力土木	1922													1985
010221	河川	1958													1981
010627	機械広場 景観	1620													1985
010604	機架	0													1876
010205	機架	645													794
010108	機架	1622													1867
010107	機架	1852													1854
010206	機架	1858													1932
010608	機架	1867													1931
010408	機架 景観	1924													1930
010106	景観 橋梁	0													1965
010409	景観 港湾	1655													1965
010626	景観 橋梁	1693													1866
010211	景観 街路	1697													1985
010105	景観 道路	1869													1901
010506	景観 水道	1886													1909
010109	景観 橋梁	1911													1945
010323	景観 橋梁	1920													1940
010322	景観 街路 橋梁	1923													1985
010410	景観 道路	1960													1981
010321	景観 道路	1967													1985
010103	交通 道路	0													1981
010201	交通 道路	0													1985
010411	交通 道路橋	0													1985
010510	交通 道路	0													1985
010524	交通 道路橋	0													1985

表-4 分野別研究対象期間一覧（その2）

論文 番号	研究分野	(目盛りは明治以降の1/20) 明 治 以 来							明 治 以 来					
		(開始)	大和 朝廷	奈 良	平 安	鎌 倉	朝 國	江 戸	明 治	大 正	戰 前	昭 和	和 後	(終了)
010535	交通 道路	0												1985
010539	交通 道路	0												1985
010534	交通 道路	645												950
010538	交通 道路	987												1985
010611	交通 道路	1100												1400
010614	交通 道路	1180												1573
010610	交通 テータベース	1454												1945
010110	交通 河川	1607												1895
010613	交通 鉄道	1867												1945
010203	交通 鉄道	1867												1972
010536	交通 道路	1868												1901
010537	交通 公共投資	1868												1912
010412	交通 鉄道	1869												1906
010204	交通 鉄道	1870												1931
010413	交通 都市内交通	1871												1926
010415	交通 道路 雪	1877												1975
010104	交通 街路	1889												1915
010319	交通 鉄道	1889												1940
010414	交通 鉄道	1895												1995
010318	交通 鉄道 公共投資	1896												1930
010525	交通 鉄道	1896												1985
010202	交通 鉄道	1896												1942
010317	交通 鉄道	1896												1985
010615	交通 鉄道	1913												1970
010320	交通 道路 雪	1925												1985
010615	交通 道路 環境	1950												1985
010509	交通 道路	1963												1985
010527	構造物	0												1867
010501	構造物 古墳	400												700
010631	構造物 城	1589												1551
010607	構造物 鉄道	1872												1985
010632	構造物	1874												1879
010526	構造物 鉄道	1893												1985
010606	構造物 ダム	1926												1930
010116	港湾	0												1985
010310	港湾	0												1985
010513	港湾 都市計画	1590												1985
010311	港湾	1605												1985
010118	港湾	1672												1981
010117	港湾	1880												1985
012119	港湾 河川	1891												1912
010207	施工 橋梁	1778												1935
010225	施工 人物	1804												1985
010208	施工 トンネル	1875												1890
010209	施工 河川	1913												1985
010508	除雪	1600												1985
010605	除雪	1932												1985
010416	地域計画	0												694
010628	地域計画	0												1702
010528	地域計画	0												1985
010114	地域計画 河川	0												1985
010316	地域計画 測量	0												1985
010212	地域計画	300												600
010417	地域計画 都市計画	1750												1971
010312	地域計画 平原	1825												1985
010313	地域計画 公共投資	1877												1909
010529	地域計画	1877												1925
010533	地域計画 鉄道	1910												1945
010418	地域計画	1912												1934
010634	都市計画	0												1987
010512	都市計画	1500												1972
010210	都市計画	1615												1977
010511	都市計画	1616												1994
010635	都市計画	1619												1985
010102	都市計画	1793												1948
010529	都市計画	1867												1955
010636	都市計画	1868												1980
010530	都市計画	1873												1980
010639	都市計画	1875												1943
010419	都市計画	1902												1980
010101	都市計画	1909												1980
010315	都市計画	1913												1965
010531	都市計画	1923												1930
010533	都市計画 街路	1933												1985
010532	都市計画	1937												1945
010120	土木行政	1867												1974
010609	土木材料 コンクリート	1867												1985
010213	土木行政	1873												1981
010324	土木行政	1873												1987
010421	土木行政	1886												1997
010504	土木行政	1897												1908
010602	土木行政	1908												1913
010222	防災 計画	1896												1969
010309	防災 地域計画	1896												1985
010507	防災 上水道	1938												1947

表-5 分野別登場人物一覧(その1)

研究分野	人物	論文	河川	右水	中安光哉	(010620)	河川、電力土木	高村博	(010301)
一般、データベース	田辺朔郎	(010502)	河川	水利	富永正義	(010620)	河川、電力土木	高橋政信	(010220)
一般、環境アセスメント	宇都宮三郎	(010314)	河川	水利	伊奈半左衛門	(010618)	河川、電力土木	高橋良吉	(010405)
一般、環境アセスメント	五十嵐日出夫	(010121)	河川	水利	岡上治郎兵衛	(010618)	河川、電力土木	高木宏明	(010220)
一般、環境アセスメント	坂内冬藏	(010314)	河川	水利	景能		河川、電力土木	高木良一	(010301)
一般、環境アセスメント	塙野喜三郎	(010314)	河川	水利	菊池利次	(010618)	河川、電力土木	高柳昇	(010405)
一般、環境アセスメント	涉野裕一郎	(010314)	河川	水利	高山右近	(010304)	河川、電力土木	高浪政次	(010301)
一般、環境アセスメント	曾根達藏	(010314)	河川	水利	佐藤信淵	(010404)	河川、電力土木	渕野忠	(010301)
一般、環境アセスメント	入谷春彦	(010314)	河川	水利	坂井就武	(010304)	河川、電力土木	佐藤源一	(010220)
一般、環境アセスメント	J. バクストン	(010401)	河川	水利	森田誠定	(010404)	河川、電力土木	佐藤承二	(010301)
一般、技術史	ン(英)		河川	水利	森田通定	(010519)	河川、電力土木	佐藤源一	(010405)
一般、技術史	モレル(英)	(010401)	河川	水利	真里用秀	(010519)	河川、電力土木	佐藤承二	(010220)
一般、技術史	古市公成	(010401)	河川	水利	前田利常	(010304)	河川、電力土木	細野修	(010405)
一般、技術史	玄井勇	(010401)	河川	水利	大石久敬	(010404)	河川、電力土木	三浦清夫	(010220)
一般、技術史	三枝博音	(010401)	河川	水利	大石久敬	(010519)	河川、電力土木	三枝清夫	(010405)
一般、技術史	田辺朔郎	(010401)	河川	水利	辻内別荘右衛門	(010618)	河川、電力土木	三村謙三	(010220)
一般、技術史	湯島秀樹	(010401)	河川	水利	遠島兵衛	(010618)	河川、電力土木	三島慶三	(010220)
一般、技術史	平山復二郎	(010401)	河川	水利	斎藤丈太郎	(010304)	河川、電力土木	山岡包郎	(010220)
一般、技術史	野口景義	(010401)	河川	水利	平岡道助	(010404)	河川、電力土木	山下昭市	(010301)
一般、切手	寺田寅彦	(010503)	河川	水利	油屋源兵衛	(010304)	河川、電力土木	山家義雄	(010220)
一般、切手	琴温	(010503)	河川	水利	東野与右衛門	(010518)	河川、電力土木	山家義雄	(010522)
一般、土木技術論	角倉了以	(010601)	河川	電力土木	エリック・フ	(010522)	河川、電力土木	山科三郎	(010301)
一般、土木技術論	行基	(010601)	河川	電力土木	ワロー		河川、電力土木	山西政男	(010405)
一般、土木技術論	武田信玄	(010601)	河川	電力土木	安藤新六	(010220)	河川、電力土木	山田昌作	(010301)
衛生	路子工	(010601)	河川	電力土木	安藤新六	(010522)	河川、電力土木	山内泰介	(010522)
衛生	後藤新平	(010406)	河川	電力土木	伊藤福次郎	(010220)	河川、電力土木	山本正昭	(010301)
衛生	森林太郎	(010406)	河川	電力土木	伊藤耕一	(010220)	河川、電力土木	市浦繁	(010220)
衛生	長与真宵	(010406)	河川	電力土木	伊藤令二	(010301)	河川、電力土木	市島金治	(010301)
衛生	岡田唯吉	(010505)	河川	電力土木	井沢政則	(010220)	河川、電力土木	海原満	(010220)
衛生	歩平祐量	(010505)	河川	電力土木	穂松義夫	(010220)	河川、電力土木	酒井伸	(010301)
衛生	延年平六	(010505)	河川	電力土木	稻本暉	(010301)	河川、電力土木	酒井伸	(010405)
衛生	広野孫三郎	(010308)	河川	電力土木	宇野周三	(010220)	河川、電力土木	住吉隆司	(010301)
衛生	バートン	(010224)	河川	電力土木	宇野周三	(010405)	河川、電力土木	住吉隆司	(010405)
衛生	バーマー(英)	(010224)	河川	電力土木	鶴岡季造	(010220)	河川、電力土木	出森左一	(010301)
衛生	水道)	河川	電力土木	鶴岡季造	(010301)	河川、電力土木	出森左一	(010405)
衛生、跋水	バルトン	(010306)	河川	電力土木	永田年	(010220)	河川、電力土木	村井文雄	(010301)
衛生、跋水	河村注	(010306)	河川	電力土木	永田年	(010405)	河川、電力土木	村井文雄	(010405)
衛生、跋水	若松雅太郎	(010306)	河川	電力土木	永田年	(010625)	河川、電力土木	小林実	(010301)
衛生、跋水	大庭高彦	(010306)	河川	電力土木	越野秀男	(010301)	河川、電力土木	小南勇	(010301)
衛生、跋水	谷井綱三郎	(010306)	河川	電力土木	猪崎復	(010301)	河川、電力土木	小野朝男	(010301)
衛生、跋水	二見龍三郎	(010306)	河川	電力土木	横川寅一	(010301)	河川、電力土木	松永安左エ門	(010625)
衛生、跋水	比企忠	(010306)	河川	電力土木	横川寅一	(010220)	河川、電力土木	松本繁樹	(010522)
衛生、跋水	庄野孫三郎	(010407)	河川	電力土木	岡崎三吉	(010220)	河川、電力土木	上野東	(010405)
河川	石田茂平	(010407)	河川	電力土木	荻島道雄	(010220)	河川、電力土木	森下正美	(010301)
河川	デレーケ	(010521)	河川	電力土木	加藤資	(010220)	河川、電力土木	森下正美	(010405)
河川	デレーケ(簡)	(010214)	河川	電力土木	加藤資	(010522)	河川、電力土木	森重義	(010301)
河川	デレーケ(簡)	(010403)	河川	電力土木	鶴田文明	(010220)	河川、電力土木	神原信一郎	(010522)
河川	リンドウ(簡)	(010217)	河川	電力土木	岸上重一	(010220)	河川、電力土木	水越連雄	(010220)
河川	リンドウ(簡))	河川	電力土木	岸上重一	(010301)	河川、電力土木	溝水満	(010301)
河川	伊奈忠次	(010214)	河川	電力土木	若下新太郎	(010301)	河川、電力土木	西出晴夫	(010405)
河川	伊奈忠次	(010302)	河川	電力土木	若本常次	(010220)	河川、電力土木	西出晴夫	(010301)
河川	閨内内務技師	(010219)	河川	電力土木	菊地武彦	(010220)	河川、電力土木	青木三浦	(010220)
河川	武橋		河川	電力土木	吉川貞治	(010301)	河川、電力土木	石崎嘉明	(010220)
河川	岩田考三	(010516)	河川	電力土木	吉田栄三	(010522)	河川、電力土木	石上立夫	(010405)
河川	旗手勤	(010522)	河川	電力土木	吉田栄三	(010220)	河川、電力土木	石川洋次郎	(010625)
河川	全原明善	(010302)	河川	電力土木	吉田栄三	(010522)	河川、電力土木	石田豊祐	(010301)
河川	古橋潤六郎	(010302)	河川	電力土木	吉田登	(010220)	河川、電力土木	仙田文三	(010405)
河川	古市公威	(010217)	河川	電力土木	吉田登	(010405)	河川、電力土木	川島登紀衛	(010220)
河川	古鳥敏雄	(010522)	河川	電力土木	吉田方明	(010220)	河川、電力土木	川島登紀衛	(010301)
河川	後藤莊助	(010403)	河川	電力土木	久保田慶	(010522)	河川、電力土木	浅田忠雄	(010301)
河川	佐藤玄仲	(010403)	河川	電力土木	宮崎義夫	(010301)	河川、電力土木	浅尾裕	(010220)
河川	三浦一郎	(010524)	河川	電力土木	横山幹太郎	(010301)	河川、電力土木	足立正俊	(010220)
河川	山田五郎左衛門	(010403)	河川	電力土木	横山幹太郎	(010405)	河川、電力土木	足立正俊	(010405)
河川	酒井忠次	(010302)	河川	電力土木	近藤信昭	(010220)	河川、電力土木	足立正俊	(010625)
河川	庄野太郎	(010403)	河川	電力土木	金岩明	(010220)	河川、電力土木	村上省一	(010220)
河川	松川元助	(010403)	河川	電力土木	金岩明	(010301)	河川、電力土木	村田満徳	(010220)
河川	神野金野助	(010302)	河川	電力土木	江崎信之	(010522)	河川、電力土木	多田尚夫	(010220)
河川	青山士	(010217)	河川	電力土木	五十嵐信一	(010522)	河川、電力土木	太田垣士郎	(010405)
河川	田中眞悟	(010115)	河川	電力土木	後藤実	(010301)	河川、電力土木	打林満一	(010301)
河川	土屋義津	(010216)	河川	電力土木	後藤實介	(010220)	河川、電力土木	打林満一	(010405)
河川	島崎季彦	(010113)	河川	電力土木	後藤壯介	(010522)	河川、電力土木	大橋健一	(010220)
河川	豊原九十郎	(010113)	河川	電力土木	後藤壯介	(010522)	河川、電力土木	大橋健一	(010220)
河川	新江船団	(010115)	河川	電力土木	江口慎	(010405)	河川、電力土木	大橋康次	(010405)
河川	内藤昌	(010112)	河川	電力土木	江尻四郎	(010301)	河川、電力土木	大橋康次	(010625)
河川	梅津建業	(010524)	河川	電力土木	荒井武治	(010301)	河川、電力土木	大西英一	(010220)
河川	板屋兵四郎	(010305)	河川	電力土木	荒井武治	(010625)	河川、電力土木	大西英一	(010625)
河川	高田景周	(010216)	河川	電力土木	高橋健	(010220)	河川、電力土木	大石勇	(010220)
河川	豊岡茂	(010403)	河川	電力土木	高橋健	(010301)	河川、電力土木	大石勇	(010522)
河川	毛利洋久	(010302)	河川	電力土木	高橋健	(010405)	河川、電力土木	大石勇	(010625)
河川、ダム	安田正鷹	(010523)	河川	電力土木	高橋光男	(010220)	河川、電力土木	大野嘉明	(010220)
河川、ダム	高橋嘉一郎	(010523)	河川	電力土木	高橋光雄	(010625)	河川、電力土木	大野嘉明	(010301)
河川、ダム	高永正義	(010523)	河川	電力土木	高桑鉄一郎	(010220)	河川、電力土木	大野嘉明	(010405)
河川、ダム	高屋嘉一郎	(010516)	河川	電力土木	高桑鉄一郎	(010625)	河川、電力土木	大林士一	(010220)
河川、ダム	岡崎文吉	(010521)	河川	電力土木	高崎博	(010220)	河川、電力土木	大林士一	(010405)

表-5 分野別登場人物一覧（その2）

河川、電力土木	大林士一	〈010625〉	橋梁	若尾五雄	〈010604〉	構造物、城	小川勝三	〈010631〉	
河川、電力土木	知久満之介	〈010522〉	橋梁	小松和彦	〈010604〉	構造物、城	大領伸	〈010631〉	
河川、電力土木	中村光四郎	〈010301〉	橋梁	松永三	〈010508〉	構造物、城	中部よし子	〈010631〉	
河川、電力土木	長井要蔵	〈010301〉	橋梁	木田謙三	〈010508〉	構造物、城	鳥羽正雄	〈010631〉	
河川、電力土木	長木路夫	〈010202〉	橋梁	奥山嘉一	〈010206〉	構造物、城	バウタツ（独）	〈010526〉	
河川、電力土木	鳥居良明	〈010522〉	橋梁	布田保之助	〈010107〉	構造物、城	）	）	
河川、電力土木	田口信治	〈010220〉	橋梁	山口文造	〈010408〉	構造物、鉄道	日井義信	〈010525〉	
河川、電力土木	田代信雄	〈010320〉	橋梁	山田守	〈010408〉	構造物、鉄道	本間第一郎	〈010525〉	
河川、電力土木	渡辺義男	〈010220〉	橋梁	太田円三	〈010408〉	構造物、鉄道	トーレン（獨）	〈010117〉	
河川、電力土木	渡辺義男	〈010301〉	景観	鶴島正義	〈010109〉	港湾	）	）	
河川、電力土木	渡辺義男	〈010405〉	景観	吉智二郎	〈010333〉	港湾	マルデル（蘭）	〈010117〉	
河川、電力土木	渡辺義男	〈010405〉	景観	吉村賛策	〈010333〉	港湾	加納作次郎	〈010118〉	
河川、電力土木	渡辺義雄	〈010301〉	景観	正木府一	〈010323〉	港湾	加納作平	〈010118〉	
河川、電力土木	渡辺甲	〈010220〉	景観	川地錦一	〈010109〉	港湾	河村端賢	〈010118〉	
河川、電力土木	渡辺時也	〈010220〉	景観	鶴島謙	〈010323〉	港湾	川村益太郎	〈010311〉	
河川、電力土木	土屋祥三	〈010301〉	景観	田中与六	〈010323〉	港湾	足立重信	〈010119〉	
河川、電力土木	鳥島幸次郎	〈010301〉	景観	望月光治	〈010323〉	港湾	戸口開右エ門	〈010311〉	
河川、電力土木	鳥島幸次郎	〈010405〉	景観	吉村賛策	〈010506〉	港湾	富岡敬明	〈010117〉	
河川、電力土木	島崎平	〈010301〉	景観	佐野静次郎	〈010506〉	港湾	片倉平蔵	〈010118〉	
河川、電力土木	藤原味爾	〈010301〉	景観	山田正男	〈010410〉	港湾	野中義山	〈010311〉	
河川、電力土木	藤原忠夫	〈010220〉	景観	石川洋輔	〈010410〉	港湾	デレーケ	〈010119〉	
河川、電力土木	藤原忠雄	〈010522〉	交通	河川	安芸紳一	〈010110〉	ムルドル	〈010119〉	
河川、電力土木	藤本得	〈010220〉	交通	河川	角倉了以	〈010110〉	ルノア	〈010119〉	
河川、電力土木	藤本得	〈010625〉	交通	河川	小川博三	〈010110〉	沖野忠雄	〈010119〉	
河川、電力土木	渡田置	〈010522〉	交通	河川	武田信玄	〈010110〉	古市公威	〈010119〉	
河川、電力土木	渡野武	〈010220〉	交通	街路	ウォートレス	〈010104〉	大船孝	〈010119〉	
河川、電力土木	渡野武	〈010301〉	交通	街路	スマドレー	〈010104〉	中山秀三郎	〈010119〉	
河川、電力土木	渡野武	〈010405〉	交通	街路	フローラン	〈010104〉	田辺朔郎	〈010208〉	
河川、電力土木	渡野武	〈010522〉	交通	街路	ブラン丁	〈010104〉	坂出鷗	〈010207〉	
河川、電力土木	内海清温	〈010220〉	交通	街路	マコービン	〈010104〉	山田龜治	〈010207〉	
河川、電力土木	内海清温	〈010522〉	交通	街路	ムルドル	〈010104〉	太田円造	〈010207〉	
河川、電力土木	内田好八	〈010301〉	交通	街路	松田貞五	〈010104〉	丹羽彌彦	〈010207〉	
河川、電力土木	白田田代隆	〈010405〉	交通	街路	田口吉吉	〈010104〉	平山彌二郎	〈010207〉	
河川、電力土木	白野友三	〈010405〉	交通	街路	渡辺益善	〈010104〉	田口三之助	〈010225〉	
河川、電力土木	萩原俊一	〈010522〉	交通	街路	芳川國正	〈010104〉	津田永忠	〈010114〉	
河川、電力土木	畠中俊吉	〈010220〉	交通	街路	田村公正	〈010104〉	フォルカー（	〈010312〉	
河川、電力土木	畠山正	〈010220〉	交通	鉄道	クロフォード	〈010412〉	蘭）	）	
河川、電力土木	飯島滋	〈010220〉	交通	鉄道	ライマン	〈010412〉	ヤンセン（蘭）	〈010312〉	
河川、電力土木	比企野昭一	〈010220〉	交通	鉄道	ルドルフ・ブ	〈010202〉	地盤計画、干拓	）	
河川、電力土木	浜田正道	〈010301〉	交通	鉄道	リスク（独）	〈010319〉	地盤計画、干拓	可知賀一	〈010312〉
河川、電力土木	福沢桃介	〈010625〉	交通	鉄道	ルドルフ・ブ	〈010319〉	地盤計画、干拓	金森誠之	〈010312〉
河川、電力土木	平井弥之助	〈010522〉	交通	鉄道	リスク（独）	〈010319〉	地盤計画、干拓	渡辺裕松	〈010312〉
河川、電力土木	平井綱之助	〈010220〉	交通	鉄道	安部時郎	〈010319〉	地盤計画、干拓	島岡政夫	〈010312〉
河川、電力土木	平山定雄	〈010522〉	交通	鉄道	堀辰	〈010412〉	地盤計画、干拓	島義勇	〈010312〉
河川、電力土木	平田茂喜	〈010301〉	交通	鉄道	山内 畏	〈010412〉	地盤計画、干拓	島義三郎	〈010312〉
河川、電力土木	米田正	〈010301〉	交通	鉄道	山本新次郎	〈010119〉	地盤計画、公共投資	北道国直	〈010313〉
河川、電力土木	米林義一	〈010220〉	交通	鉄道	兎王雄輔	〈010119〉	地盤計画、測量	岩田重雄	〈010316〉
河川、電力土木	米林義一	〈010405〉	交通	鉄道	小野豊兒	〈010319〉	地盤計画、測量	中村春寿	〈010316〉
河川、電力土木	北松友義	〈010522〉	交通	鉄道	松本莊一郎	〈010412〉	地盤計画、鉄道	洗沢第一	〈010333〉
河川、電力土木	牧野一郎	〈010301〉	交通	鉄道	沢辻内文雄	〈010319〉	地盤計画、鉄道	小林一三	〈010333〉
河川、電力土木	牧野一郎	〈010405〉	交通	鉄道	早川慶次	〈010202〉	地盤計画、鉄道	堤康次郎	〈010633〉
河川、電力土木	堀田稔	〈010301〉	交通	鉄道	早川慶次	〈010319〉	地盤計画、都市計画	新渡戸十次郎	〈010117〉
河川、電力土木	木方三郎	〈010301〉	交通	鉄道	村田堤	〈010412〉	地盤計画、都市計画	新渡戸伝	〈010417〉
河川、電力土木	目黒雄平	〈010220〉	交通	鉄道	太田圓三	〈010319〉	地盤計画、都市計画	新渡戸邦之助	〈010417〉
河川、電力土木	目黒雄平	〈010301〉	交通	鉄道	木辺朝郎	〈010412〉	地盤計画、都市計画	エベニヤ（英）	〈010419〉
河川、電力土木	目黒雄平	〈010525〉	交通	鉄道	那波光雄	〈010516〉	都市計画	横山光雄	〈010630〉
河川、電力土木	野口寅之助	〈010220〉	交通	鉄道	平井晴二郎	〈010412〉	都市計画	久野四兵衛	〈010634〉
河川、電力土木	野瀬正義	〈010405〉	交通	道路	北垣国直	〈010412〉	都市計画	貌山猛	〈010634〉
河川、電力土木	野瀬正義	〈010220〉	交通	道路	アンチセル	〈010536〉	都市計画	近藤清三郎	〈010630〉
河川、電力土木	野瀬正義	〈010525〉	交通	道路	クラーク	〈010536〉	都市計画	庭直尚	〈010512〉
河川、電力土木	野田和郎	〈010220〉	交通	道路	ケブロン	〈010535〉	都市計画	後藤新平	〈010531〉
河川、電力土木	矢崎道美	〈010220〉	交通	道路	ワーフィールド	〈010536〉	都市計画	広田英郎	〈010315〉
河川、電力土木	矢崎道美	〈010522〉	交通	道路	坂本太郎	〈010535〉	都市計画	梶田重治	〈010830〉
河川、電力土木	立林久	〈010301〉	交通	道路	小林博	〈010535〉	都市計画	佐藤俊久	〈010532〉
河川、電力土木	林安堅	〈010625〉	交通	道路	松浦武四郎	〈010536〉	都市計画	坂本理一郎	〈010419〉
河川、電力土木	林清吉	〈010405〉	交通	道路	育木重孝	〈010510〉	都市計画	山崎圭一	〈010532〉
河川、電力土木	鉢木	〈010220〉	交通	道路	若田幹夫	〈010509〉	都市計画	小林正久	〈010511〉
河川、電力土木	鉢木玄藏	〈010522〉	交通	道路	足利亮亮	〈010535〉	都市計画	松平忠明	〈010210〉
河川、電力土木	鉢木季英	〈010301〉	交通	道路	土屋重慶	〈010509〉	都市計画	新渡戸裕造	〈010102〉
河川、電力土木	鉢木民治	〈010220〉	交通	道路	蕨岡耕二郎	〈010535〉	都市計画	新渡戸七郎	〈010102〉
河川、電力土木	鉢木民治	〈010522〉	交通	道路	菊池裕	〈010320〉	都市計画	新渡戸十次郎	〈010102〉
河川、電力土木	鉢木孟昇	〈010301〉	交通	道路	金森長近	〈010320〉	都市計画	新渡戸伝	〈010102〉
河川、電力土木	相沢清吉	〈010220〉	交通	道路	鹿島一二	〈010320〉	都市計画	赤木幹一	〈010630〉
河川、電力土木	相沢清吉	〈010301〉	交通	道路	古川岐	〈010320〉	都市計画	大野長一	〈010515〉
河川、電力土木	相沢清吉	〈010405〉	交通	道路	直江兼続	〈010320〉	都市計画	中山平次郎	〈010634〉
河川、電力土木	和田浩伸	〈010405〉	交通	道路	伊東忠太	〈010527〉	都市計画	直木倫太郎	〈010530〉
河川、電力土木	和田芳平	〈010525〉	構造物	石井虎左太郎	〈010527〉	都市計画	田中亮三	〈010315〉	
河川、電力土木	和田万里	〈010320〉	構造物	石井虎左衛門	〈010632〉	都市計画	米田正文	〈010530〉	
河川、電力土木	大畠正敏	〈010503〉	構造物	鳥羽正雄	〈010527〉	都市計画	豊臣秀吉	〈010534〉	
橋梁	ジョン・ファウラー	〈010206〉	構造物	田辺泰	〈010527〉	都市計画	野村秀吉	〈010315〉	
橋梁	トーマス・ワ	〈010206〉	構造物	ダム	〈010527〉	土木材料、コンクリート	コンクリート	加藤清正	〈010509〉
橋梁	ジョン・ジョン	〈010206〉	構造物	ダム	〈010527〉	土木材料、コンクリート	コンクリート	國貞寛平	〈010609〉
橋梁	ジョン・ジョン	〈010206〉	構造物	ダム	〈010527〉	土木材料、コンクリート	コンクリート	船部英七	〈010509〉

容を充実させるためには論文数の増加が必要と考えられる。

5. 土木史研究の今後

以上の内容をふまえて、本研究のまとめとともに今後の土木史研究あるいは本研究発表会のあり方に關して2, 3の考察を加えたい。

① 本研究では、土木史研究を分野はもとより時間・空間・人間軸上に位置づけることを提案した。いずれも、その境界や基準は不分明であるが、今後大いなる議論の対象としてゆきたい。

② とりわけ人間に關しては一層の研究が期待される。土木が人間の学であるならば、人間の評価を通じて新たな土木のあり方が現れてくるのではなかろうか。仮に記録するその数があまりに膨大であると危惧する人には、本研究の方法によってその整理活用が十分可能であることを示したい。

③ パーソナルコンピュータとリレーショナルデータベースの登場によって、われわれはようやく文字情報の蓄積に新たな方法を見い出したと言える。土木史研究データベースは土木史研究者すべてに有用な情報を提供できると考えられる。本研究を土台に一層有効なデータベースの構築が進められることを希望している。

④ 今後、データベースの構築に向けて、登録カードの作成を提案したい。そこには研究内容の記載はもとより、従来のキーワードに代えて、論文が対象とした時代・地域・人物の内容を著者自らの手によって記載することが望まれる。

⑤ 本研究発表会が土木史体系化の中心となって発展するためにも、今後は自由課題に加えて特定課題を設け、それぞれの分野、時代、地域、人物などの均衡ある研究の充実を図っていくことが望まれる。

6. おわりに

土木史が土木の過去を現代に蘇らせる役割を担っているのであれば、本研究は土木史研究を今日に位置づけようとしている。建築等の分野と比べ、大きく遅れをとっている感のある土木史研究を早急に体系化してゆくためには、最新の情報処理システムを

積極的に導入して総合的な視野を確保するとともに、土木史研究の評価を高め広範な土木技術者・研究者の参加を呼びかけていくことが必要であろう。その意味で、本研究の試みが今後の土木史研究に貢献できれば幸いである。

本研究は、引き続き、第7回研究発表会の論文はもとより他の様々な分野における土木史研究論文の収録にも努め、土木史研究データベースを充実させていく所存である。多くの研究者のご協力を願う次第である。

7. 付 記

本研究において作成した土木史研究データベースは希望者に無料で提供いたします。

記録媒体は5インチ2DDあるいは2HDのフロッピーとなります。ファイルの構造など詳細は著者にご一報ください。本研究の利用法に準じることが望まますが、リレーショナルデータベースソフトを所有されていない方にはMS-DOSのテキストファイルとして提供することも可能です。日本語ワープロ上で内容を参照することができます。

なお、著作権法上、本研究で使用したソフトウェアに関してはコピーできないので予めご了承ください。

< 参考文献 >

- 1) 土木学会日本土木史研究委員会,
「第1回～第6回日本土木史研究発表会論文集」,
土木学会, 1981.6～1986.6
- 2) 佐藤馨一・五十嵐日出夫・堂柿栄輔・中岡良司,
明治以前日本土木史年表の試作について,
第4回日本土木史研究発表会論文集, 1984.6
- 3) 中岡良司・佐藤馨一・五十嵐日出夫,
リレーショナルデータベースによる土木史情報支援システムについて,
第5回日本土木史研究発表会論文集, 1985.6
- 4) 中岡良司・森 弘・佐藤馨一・五十嵐日出夫,
交通路の発達による時間距離の変遷について
リレーショナルデータベースを用いてー,
第6回日本土木史研究発表会論文集, 1986.6